

関西大学（大学部門）の外部評価に関する懇談会

昨年開催した関西大学併設校の外部評価に関する懇談会に引き続き、2011年6月29日（水）、千里山キャンパスにおいて、関西大学（大学部門）の外部評価に関する懇談会を開催しました。

関西大学外部評価委員会は、本学における自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者を中心に構成され、その意見を自己点検・評価活動に反映させることを目的に設置されています。

当日ご出席いただいた外部評価委員会委員及び本学の出席者は、以下のとおりです（敬称略）。

委員長 小西 靖洋（関西大学常務理事）

委員 成山 治彦（大阪教育大学理事）

早田 幸政（大阪大学大学教育実践センター教授）

平松 一夫（関西学院大学商学部教授、元関西学院大学学長）

本学出席者 楠見 晴重（学長）

黒田 勇、市原 靖久、上島 紳一、廣瀬 幹好（いずれも副学長）

新井 泰彦、本西 泰三、山本 英一（いずれも学長補佐）



会に先立ち、楠見学長から開会挨拶及び趣旨説明が行われました。

続いて、楠見学長及び小西常務理事による出席者紹介の後、本学自己点検・評価委員会大学部門委員会の委員長である黒田副学長の司会・進行のもと、懇談が行われました。

懇談事項としては、2010年度に受けた外部評価の評価対象となった『関西大学「学の実化」自己点検・評価報告書 Vol.8.No.3 に関する外部評価報告書』において外部評価委員から頂戴した指摘事項や、同年度に本学併設校が外部評価懇談会を実施した際に頂戴したご意見をもとに設定いたしました。これらについて、外部評価委員の先生方からあらためてご意見・ご説明をお願いし、当時の本学の所見・改善策を確認しつつその後の進捗等を執行部メンバーから報告するとともに、双方の意見・情報交換を行いました。さらに、上記事項とは別に、本学大学執行部がとくに取り上げたいテーマについて

ても懇談を行いました。

懇談は、「教育内容・方法等」、「教育研究組織」、「国際交流」、「研究活動と研究環境」、「社会貢献」、「財務」、「行動計画、自己点検・評価」という、『自己点検・評価報告書』の記載項目におおむね沿う形で、活発な論議がなされました。主要な議事内容は以下のとおりです。

1 「教育内容・方法等」 「教育研究組織」

(1) 全学共通科目について

教養教育を体系化する必要性と本学の取組状況について意見交換を行いました。また、本学独自の取組「文部科学省大学教育・学生支援推進事業：三者協働型アクティブ・ラーニングの展開-大学院生スタッフとともに進化する“How to Learn”への誘い-」について紹介、説明いたしました。

なお、外部評価委員から指摘いただいた「全学共通教育委員会の役割の明確化と権限の強化」という課題を改善すべく、教育推進部において、全学共通教育に関する、より自立性を持った能動的な組織への改編を検討している旨の報告を行いました。

(2) 授業評価アンケート及びアウトカムズ評価について

授業評価アンケート結果のフィードバックシステム等を改善するため、教育開発支援センターでプロジェクトを進めている旨の報告がありました。また、FD活動の実効性ある取組事例について意見交換を行いました。

アウトカムズ評価については、従来の、「何を、どう教えるか」といったインプット・プロセスを重視した教育から、「学生が何を学んだか。どんな能力を身につけたか」というアウトプット・アウトカムを重視した教育への転換について、その意義、あり方を共有いたしました。

日本学術会議における分野別参照基準の検討作業の動向についても着目しつつ、大学として教育方法改善策を講じることについて協議いたしました。国内外の事例紹介や本学学生の「社会人基礎力」（＝語学力、文章記述・表現力、論理的思考力）を高める取組についても紹介が行われました。

関連して、この春の本学卒業生及び入学生全員に対し、入学から卒業までの本学のサポート体制の満足度やイメージ等に関するアンケート調査を実施した旨の報告を行いました。

(4) 大学院の再編（学府構想）について

学府あるいは学術院といった教員組織と学部教育組織の分離の是非について論議がなされました。組織を分離するメリットとしては、学部、大学院のどちらにおいても、学生や社会のニーズに応える教育プログラムの設定・再編等を行いやすいであろうという意見がありました。一方、デメリットとしては、教員の教育に対する責任の低下リスク等があげられました。また、大学の規模や設置形態、各大学の文化等によっても導入意義についての判断が分かれるところだろうという意見もいただきました。

2 「国際交流」

(1) 留学制度について

国際化に関する本学の組織面での改革として、国際部の設置、専任教員の配置について報告を行い、あわせて国際化戦略構想の内容と進捗について説明を行いました。また、日本の学生が内向き志向になっている現状を確認し合い、対応策について協議いたしました。関連して、外国語学部の留学制度の紹介、ピア・サポート等の学生同士の横のつながりが有効であること、国際部の教員による各学部へのアプローチ等の現状報告を行いました。また、他大学の取組事例の紹介がありました。

3 「研究活動と研究環境」

(1) 科研費獲得推進について

本学における現行の科研費申請奨励研究費制度の改正状況について報告がありました。科研費申請手続の支援体制強化により申請手続きの負担が軽減され、件数増加につながったこと、また、申請はしたが採択されなかった教員へのサポート制度について話し合いました。

(2) 研究推進部における教員配置について

本学の研究推進部の役割・位置づけについて紹介し、現在教員配置のあり方について検討中であることを説明いたしました。研究推進部は、学部・研究科という縦のラインに対して、横のラインを形成しており、学際的なコーディネートもできる組織を目指したい旨説明いたしました。

4 「社会貢献」

本学の社会連携部の役割・位置づけについて説明を行い、各キャンパスを設置している自治体等との連携状況について報告を行いました。また、社会連携に関して各大学が直面している課題として、教員による社会貢献活動の実態把握の困難さや、教員のエフォートの問題があることを共有し、意見交換いたしました。

5 「行動計画、自己点検・評価」

いずれの活動も、当事者が真摯に取り組むことが重要であることを踏まえ現状を報告いたしました。具体的に①自己点検・評価は改善するための仕組みであるという意識の定着、②執行に近いメンバーが自己点検・評価を行い、その結果をフィードバックさせやすいシステムの導入、③行動計画と自己点検・評価の一体化した運用等を行い、認証評価の受審等とあわせて改善実績も表れており、PDCA サイクルがうまく回り始めていること。また、これらの現状を踏まえてPDCA サイクルのさらなる充実や内部質保証に取り組んでいく旨の説明を行いました。

その他、財政基盤の確立、高大接続、併設校のあり方等についても懇談いたしました。

以上、多岐にわたるテーマに関し、その現状と課題並びに今後の展望について、活発な意見交換が行われました。

今回、外部評価委員の先生方から忌憚のないご意見・ご提言を賜り、貴重な意見交換・情報提供の機会を得られたことは、本学の自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保するうえで大変有意義でした。

この成果を踏まえ、本学における教育・研究・社会貢献活動の質的向上に向けて、これまで以上に精力的な取組を続けるとともに、今後の自己点検・評価活動を強化してまいります。

以 上